

平成22年6月9日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18530588  
 研究課題名（和文） 幼児期にふさわしい「学び」の過程を保障するカリキュラム・指導計画に関する調査研究  
 研究課題名（英文） An investigation on the curriculum and teaching plans that would guarantee the process of learning suitable for preschoolers  
 研究代表者  
 奥山 順子（OKUYAMA JUNKO）  
 秋田大学・教育文化学部・准教授  
 研究者番号：30361215

## 研究成果の概要（和文）：

秋田県内全幼稚園の保育者を対象とする調査から、遊びを中心とする保育においては計画の独自性に対する保育者の理解が課題であることが明らかになった。また、保育者の「遊び」に対する理解も課題であるにとらえ、遊びの観察から子どもの発達を具体的にとらえ、遊びの意味を再考した。これらの課題に対する、保育者の養成、研修の方向性についても考察した。研究成果は、実践者に対しても広く公表し、学びの機会を提供した。

## 研究成果の概要（英文）：

A questionnaire conducted to the kindergarten teachers throughout Akita Prefecture revealed that teachers' understanding concerning the originality of teaching design was important when implementing play-oriented education and care. In our study, we observed and concretely grasped children's play and reconsidered the significance of it as it was indicated that teachers should really understand the meaning of children's play. We also discussed the orientation of teacher training and education concerning these tasks. Our findings have been made public in order for many educators and practitioners may have an opportunity to learn.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,100,000	570,000	3,670,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育学, 幼稚園教育, カリキュラム, 計画, 発達過程, 保育者の専門性

## 1. 研究開始当初の背景

幼稚園のカリキュラム・指導計画に焦点を当てた研究は、これまでその基本構造や理念などにかかわる理論研究と、実践現場での実際の計画立案・作成にかかわるものの二方向での研究が主流であり、保育実践からの検証や、実践についての理論からの検証、および保育における計画の独自性についての検討は十分とはいえなかった。実践の基盤となる保育観、発達観、幼児観という視点を基本にして、保育実践でのカリキュラム理解とを理論と実践の両面からの検証が必要であると考えた。

## 2. 研究の目的

幼稚園教育において幼児期にふさわしい生活を保障するためには、「遊び」を通じた「学び」の過程をとらえた教育課程および指導計画をめぐる諸課題をとらえ、そのありかたを探ることが必要である。そのために、保育現場がかかえる諸問題の具体的な把握とその検証、および幼児期の発達についての縦断的・実証的研究を本研究の重点として位置づけ、以下の三点を目的とした。

### (1) 幼稚園教育におけるカリキュラム・指導計画の重要性

保育者の保育観、幼児観、発達観を確立するための方策、それが反映されたカリキュラム・指導計画のあり方、またカリキュラム・指導計画の編成・作成が保育者の保育観、幼児観、発達観確立のための重要な保育活動として位置付けられるための方策を探る。

### (2) 保育形態の変化に応じたカリキュラム・指導計画

### (3) 発達の連続性を見通した保育実践を支える指導計画

幼小の連続性をふまえ、発達過程を見通した、カリキュラム・指導計画、また教育計画の策定という課題に対し、幼児期の「遊び」を通じた「学び」の過程を明らかにすることによって、幼児教育の独自性と長期にわたる教育の中での位置付けを明確にする。

## 3. 研究の方法

### (1) 保育者のカリキュラム理解に関する研究

①保育者のカリキュラム・指導計画についての意識調査

②保育者のライフステージによるカリキュラム理解の変化（インタビュー）

③ カンファレンスの実践分析による保育

④ 幼稚園のカリキュラム・指導計画の分析

(2) 幼児期の発達と「遊び」の中の「学び」に関する研究

①特定抽出児の保育3年課程の縦断的記録と分析

②園生活における「遊び」の位置づけの検証

③幼稚園における幼児の行動分析による発達過程の検証

(3) 保育施設の変化と保育

①保育施設の目的や保育形態と保育者の保育観・発達観との関連性

②保育制度と保育理念～カリキュラム・指導計画の分析による目的の具現化の検証

(4) 保育者の専門性向上のための教育のあり方に関する研究

①保育者のライフステージに応じた現職研修のあり方

②保育者養成教育におけるカリキュラム・指導計画理解に関する研究

(5) 保育者の専門性を高める教育の理論と実践との関連

幼児期にふさわしい生活を保障するカリキュラム・指導計画試案の作成・提案

## 4. 研究成果

### (1) 保育者のカリキュラム理解に関する研究

秋田県内全幼稚園の保育者を対象とする調査により、保育者のカリキュラム理解の実情と課題を把握し、「遊び」を通しての幼児期の「学び」の保障に、保育者のカリキュラム理解が課題となっていることを明らかにし、それが保育者の専門性育成上の重要な課題であることを指摘した。

調査においては、保育者の計画に対する意識が、保育の中心である「遊び」には向かっていない傾向があり、専ら保育者による意図的な集団活動を対象としていることが明らかになった。また、保育計画が学年等で共有されていること、作成に当たって、市販の雑誌等が参考にされている例の多いことなどの傾向から、遊びを中心とする保育の実現のためには保育者の計画理解が重要な課題であることを明らかにした。

また、保育者のカリキュラム理解の実情と課題の背景を明らかにするために、幼稚園のカリキュラムの分析を行った。同時に、上記調査において、多くの保育者が保育の参考に

していることが明らかになった、保育雑誌掲載のキャリアラムおよび指導計画の分析も行い報告した(論文⑩, ⑬, ①, 学会発表⑤, ⑦)。

#### (2) 幼児期の発達と「遊び」の中の「学び」に関する研究

研究者2名がそれぞれに3年保育児の保育場面の縦断的観察・記録を実施し、3年課程の幼児の発達過程を、遊びを中心とする生活の中での「学び」の観点で分析した。観察、記録は、原則として週1回程度実施し、エピソード記録およびビデオ記録を行った。記録から幼児の経験をとらえ、「遊び」の中の幼児の経験が豊かな「学び」の体験であることを明らかにし、現行幼稚園教育要領において保育の基本としてあげられている自発的な遊びを中心とする保育の意義を実証的に考察し、明らかにした。

これらの研究は大学附属幼稚園との連携で推進し、幼稚園における園内研修会ならびに公開研究会において成果を提供し、同幼稚園研究紀要への寄稿をはじめ、論文として報告した。また、当該幼稚園、および地域の保育者が参加する研究会においてカンファレンスを実施した(論文②, ③, ④, ⑤, ⑦, ⑧, 学会発表①, ②)

幼児の自発的活動としての遊びを中心とする保育についての現場保育者の理解を促すため、幼児の遊びの中での経験をとらえることによって、本来の「遊び」の意義を再考し、実践に即して論じたものを、実践者に向けて提供した。(論文①, ②, ③, ④)

#### (3) 保育施設の変化と保育との関係をとらえた研究

幼稚園、認定こども園における保育計画や保育雑誌掲載の指導計画について調査し、そこに表れる「計画性」の特徴を分析し、保育の中での「遊び」の位置づけを検証した。論文として報告(論文①, ⑩,)したほか、協力施設の指導計画作成に参加、協力した。

#### (4) 保育者の専門性向上のための教育のあり方に関する研究

保育者志望学生を中心とした大学生のもつ保育観、発達観を調査し、その特徴をとらえ、教育の方向性を考察し報告した(論文①, ⑨, ⑫, ⑬, 学会発表③, ④, ⑥)。また、ベテラン保育者のライフストーリーインタビューを通して、遊びを中心とする保育の理解の背景にある保育観を支える要因を探り、フォーマル、およびインフォーマルな保育者の学びについて検証した(論文⑥)。

また、遊びを中心とする保育の実現に必要な保育者の姿勢について、事例を通して考察し、発表した(論文⑦, ②)。

#### (5) 保育者の専門性を高める教育の理論と実践との関連

研究協力園である大学附属幼稚園の保育研究に参加し、実践研究のあり方を共に探ると共に、幼稚園・保育所等の現場保育者との学習機会を年間9回実施し、学外講師との学習機会を設定するなど、保育観、発達観の見直しにつながる共同の学習機会とした。また、その活動を通信として発行したほか、論文等を『秋田乳幼児研究会報』として発行し、実践現場へ提供している。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

①奥山順子, 保育者の計画理解における情緒性—「ねらい」としての「楽しむ」ということばの周辺—, 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学, 査読無, 第65集, 2010, 13-20

②奥山順子, 子どもの遊びを見つめる—遊びの意味を考えること—, 秋田大学教育文化学部附属幼稚園平成21年度研究紀要, 査読無, 2010, 71-82.

③奥山順子, 子どもの遊びを見つめる—「遊び」を中心とする保育の実現と「遊びを見つめること」—, 秋田大学教育文化学部附属幼稚園平成20年度研究紀要, 査読無, 2009, 63-73.

④奥山順子, 遊びを中心とする保育の実現と「遊びを見つめること」, 秋田大学教育文化学部附属幼稚園平成19年度研究紀要, 査読無, 2009, 67-87.

⑤奥山順子, 幼稚園教育における「集団」の意味—3歳児の園生活への適応をめぐる—, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 査読有, 第30巻, 2008, 121-132.

⑥奥山順子, 保育者の資質としての「遊び」理解—保育者の「語り」にみる保育観形成過程—, 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学, 査読無, 第63集, 2008, 13-23.

⑦奥山順子, 共に育つ生活—「慣れる」ことをめぐる保育者と子どもの関係性を中心に, 秋田大学教育文化学部附属幼稚園平成18年度研究紀要, 査読無, 2008, 89-99.

⑧山名裕子, 遊びの中における幼児の数量表現—観察事例からの検討—京都国際社会福祉センター 発達・療育研究, 査読無, 第23巻, 2007, 31-38.

⑨山名裕子, 大学生が考える「遊びの中での学び」, 秋田大学教養基礎年報, 査読無, 第9巻, 2007, 23-29.

⑩奥山順子, 山名裕子, 幼稚園教育における計画の位置づけ—保育者の計画理解と「遊びを中心とする保育」—, 秋田大学教育文化学

部研究紀要 教育科学, 査読無, 第 62 号, 2007, 43-51.

⑪奥山順子, 山名裕子, 幼稚園教育における計画の位置づけ—保育者の意識調査にみる保育の計画性と保育者の専門性—, 秋田大学教育文化学部研究紀要 教育科学, 査読無, 第 61 号, 2006, 83-90.

⑫山名裕子, 大学生における発達のイメージ, 秋田大学教養基礎教育研究年報, 査読無, 第 8 巻, 2006, 23-28.

⑬奥山順子, 山名裕子, 求められる保育者の専門性と大学における保育者養成—保育者志望学生の意識と養成教育の役割—, 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要, 査読有, 第 28 巻, 2006, 119-132.

[学会発表] (計 7 件)

①山名裕子, わりきれないものの配分の仕方(2)—「同じ」と判断する理由の分析—, 日本発達心理学会第 21 回大会, 2010 年 3 月 27 日, 神戸国際会議場

②山名裕子, 子どもの学びを促す学習支援のための研究のあり方: 幼児期における数量理解の発達, 日本心理学会第 73 回大会, 2009 年 8 月 26 日, 立命館大学

③山名裕子, 大学生の幼児期についての記憶(3)—楽しい「遊び」の経験と「学び」の関係から—, 日本心理学会第 72 回大会, 2008 年 9 月 20 日, 北海道大学

④ Yamana, Y., How university students remember their past events in early childhood, The 20<sup>th</sup> Biennial Meeting International Society of Social Behavioral Development., 2008 年 7 月 16 日, Wurzburg, Germany.

⑤奥山順子, 幼稚園における保育の計画性の課題(2)—保育者の資質としての計画理解, 日本保育学会第 61 回大会, 2008 年 5 月 18 日, 名古屋市立大学

⑥山名裕子, 大学生が考える幼児期の「遊び」の中の「学び」とは, 日本発達心理学会大 19 回大会, 2008 年 3 月 21 日, 大阪国際会議場

⑦奥山順子, 幼稚園における保育の計画性の課題—「計画」に対する保育者意識からの考察—, 日本保育学会第 60 回大会, 2007 年 5 月 19 日, 十文字学園女子大学

[図書] (計 2 件)

①多鹿秀継・南憲治(編), あいり出版, 児童心理学の最先端, 2009, 92-103.

②都築学(編), ナカニシヤ出版, やさしい発達心理学, 2008, 88-103.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

奥山 順子 (OKUYAMA JUNKO)

秋田大学・教育文化学部・准教授

研究者番号 : 30361215

### (2) 研究分担者

山名 裕子 (YAMANA YUKO)

秋田大学・教育文化学部・准教授

研究者番号 : 10399131

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号 :